

**製品名: リン酸化 BRCA1 (Ser1423) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab00841**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティークロマトグラフィー

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	Calculated MW: 208 kDa; Observed MW: 208 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	BRCA1
別名	BRCA1; RNF53; Breast cancer type 1 susceptibility protein; RING finger protein 53
遺伝子 ID	672
SwissProt ID	P38398
免疫原	抗血清は、ヒト BRCA1 由来の Ser1423 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1391-1440

**背景**

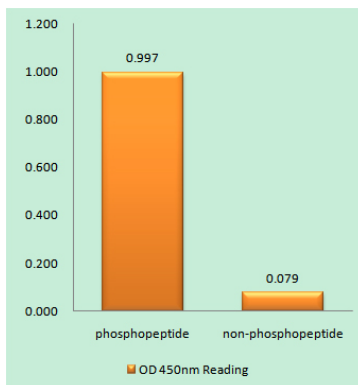
E3 ユビキチンタンパク質リガーゼは、特異的に「Lys-6」結合ポリユビキチン鎖の形成を媒介し、DNA 損傷に対する細胞応答を促進

することで DNA 修復において中心的な役割を果たします。他の種類のポリユビキチン鎖の形成も媒介するかどうかは不明です。E3 ユビキチンタンパク質リガーゼ活性は、その腫瘍抑制機能に必要です。BRCA1-BARD1 ヘテロダイマーは、DNA 損傷修復、ユビキチン化、転写制御など、多様な細胞経路を調整してゲノム安定性を維持します。中心体微小管の核形成を制御します。G2 期から有糸分裂への正常な細胞周期の進行に必要です。細胞周期の S 期と G2 期の両方で電離放射線照射後の適切な細胞周期停止に必要です。DNA 損傷に応答して P21 の転写制御に関与します。FANCD2 が DNA 損傷部位を標的とするために必要です。転写調節因子として機能する可能性がある。不活性なリン酸化 ACACA に結合し、その脱リン酸화를阻害することで脂質合成を阻害する。PALB2 との直接的な相互作用を介して相同組換え修復 (HRR) に寄与し、DNA 切断時に PALB2 依存性の BRCA2-RAD51 修復機構のローディングにおける調節的役割を通じて、組換え修復を微調整する。BRCA1-RBBP8 複合体の構成要素であり、CHEK1 の活性化を制御し、BRCA1 を介した RBBP8 のユビキチン化を介して DNA 損傷における細胞周期 G2/M チェックポイントを制御する。転写活性化因子として作用する (PubMed:20160719)。

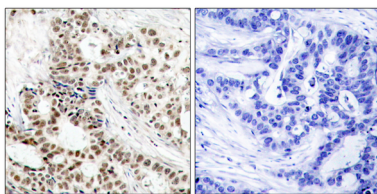
## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

## 画像データ



BRCA1 (リン酸化 Ser142 抗体) を用いた、免疫原リン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



リン酸化 BRCA1 (Ser1423) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。右側はブロッキングペプチドを添加したサンプル。抗原賦活化には、高压高温クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を使用した。